

背景 & 課題

▼この事業の主題

海洋ごみ問題をどこか遠い国の問題だと思っている人が多い現状がある。これらの問題が自分の生活と繋がっていると深刻な問題であることを認識してもらうには、まずごみ拾いに参加してもらい現状を知ってもらう事が一番大切だと考える。スポGOMI全国大会では日本を8エリアに分けスポーツとしてのごみ拾い大会の予選会を開催すると同時に、以降スポGOMIの運営を任せられる拠点を育成しよりスポGOMIに参加しやすい環境づくりを目指す。

実施内容のまとめ

実施①



全国を8エリアに分け予選大会を開催
老若男女の誰でも参加できる仕様で695名が参加

実施②



スポGOMI開催後、スポGOMI運営講習会を開催
8エリアで開催し52名が参加しての運営指導

実施③



全国8エリアの代表チームによる全国大会を東京にて開催。エリアのリーダーによる活動報告会も開催

量的成果（事業の拡がり）

- ① 全国を8エリアに分け予選大会を開催し695名が参加
- ② 8エリアにて今後拠点となりスポGOMIの運営をしてもらう団体に対し、海プロの説明とスポGOMI運営方法の勉強会を開催。52名が参加
- ③ 8エリアの代表チームと全国大会を開催。8チーム40名が参加（内5エリアがリモート）。大会後、エリア代表による活動報告会を開催。

質的成果（次なる展開への芽）

- ① 老若男女多くの方々が参加し、スポGOMI甲子園を知っている方も多かった。一般の大会が無いかなと探していたらこの大会を見つけたという参加者も。
- ② 海プロの説明とスポGOMI運営指導会において、どのエリアも意識が高く参加意欲も高い。地域で既に様々なソーシャル活動をしている団体が多かった
- ③ 予選から全国大会までコロナの影響で期間が空いたが、各代表チームが積極的に参加してくれた。活動報告会も熱が入り素晴らしい仲間が出来た

2020年度 課題点

- ① 開催エリア選別に時間がかかってしまった
- ② 運営指導にもう少し時間を割り、ヌケモレの無い指導をすべき
- ③ 全国大会の会場選びと告知にもっと余裕を持つべき

2022年度 改善点

- ① 今回の8拠点と連携を取り、早々に新たなエリアを決める
- ② エリア大会後の運営指導会の時間を拡大する
- ③ コロナの状況を見ながら先手先手のスケジューリングを心がける

北海道エリア

2020年11月21日(土)

小樽大会:参加12チーム 60名(内、リモート5チーム 25名)

エリア講習:日本スポーツ雪かき連盟

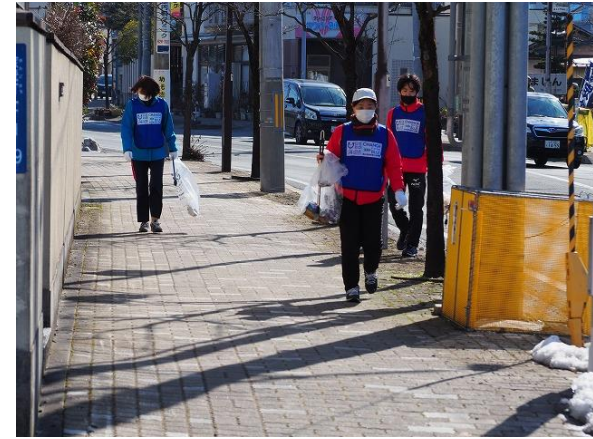


東北エリア

2021年2月27日(土)

山形大会:参加14チーム 67名(内、2チームは米沢市よりリモート参加)

エリア講習:美しい山形最上川フォーラム



関東エリア

2021年4月17日(土)

群馬大会:参加15チーム 73名

エリア講習:オガタ企画



中部エリア

2021年3月6日(土)

豊田市大会:参加30チーム150名

支部講習:スポボラとよた



近畿エリア

2021年3月30日(火)

神戸大会:参加18チーム89名

エリア講習:ニュースダスト



中国エリア

2020年12月12日(土)

広島大会:参加8チーム24名

エリア講習:SATOMACHI



四国エリア

2021年3月28日(日)

香川大会: 参加27チーム132名

エリア講習: 瀬戸内オリーブ基金



九州沖縄エリア

2020年12月19日(土)

福岡大会:参加20チーム100名

エリア講習:北九州スポーツクラブACE



全国大会の様様



◆ 総参加チーム : 144チーム ◆ 参加者総数 : 695名

◆ **ごみの総重量 : 896キログラム**

(内訳: 燃えるごみ420.4kg 燃えないごみ418.8kg ビン・缶23.5kg ペットボトル25.0kg
たばこの吸い殻8.3kg)



RKB毎日放送



RKB まちぶり



中日新聞



北海道新聞



中日新聞